

野鳥公園ラウンジカフェニュース



2013年8月

野鳥公園ラウンジカフェとは



多くの渡り鳥が飛来するなど豊かな自然環境を有する博多湾、その東に位置するアイランドシティに、約12畝の野鳥公園の整備を予定しています。野鳥公園ラウンジカフェは、住民や学生など市民をはじめ、専門家、事業者、NPO、行政など多様な主体が野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合う場です。



～これまでの経緯～ 第1回

野鳥の観察会で野鳥のことをちょっと知り、野鳥公園とは？を全員で話し合いました

みんなが野鳥公園に求めるものって？



野鳥公園で誰とどんなことをしたい？

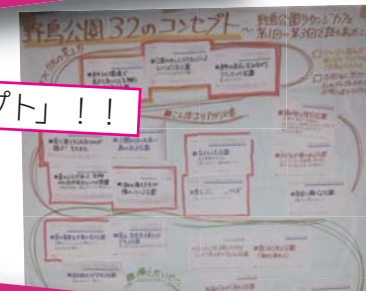
第2回

市民・地域住民・野鳥・子ども・専門家の立場になりきり、野鳥公園に求めるものを探しました

第3回

82のコンセプトの中から、特に大事なものを選び、野鳥公園の使い方や活動を話し合いました

野鳥公園で大切にしたい「32のコンセプト」！！



第4回

野鳥公園の計画予定地を全員で視察しました。そして野鳥公園の大図面（おたき台）が登場。具体的な意見がたくさん出ました

そのために必要な場所や機能は？

今回はココ！ 第5回ラウンジカフェ

「理想的な野鳥公園を考えよう！」自分が野鳥公園に貢献できることはなんだろう？ 最悪な野鳥公園を考え、そして理想的な野鳥公園を導き出しました

次回！

第6回ラウンジカフェ

ラウンジカフェ意見に基づいて全体コンセプト案を提示し、野鳥公園で練り広げられる様々なストーリーを考えていきます。

レゴ®シリアスプレイとは

第5回ラウンジカフェでは、レゴ®シリアスプレイという問題解決手法を取り入れました。この手法では、各人の心の奥に隠れた内観（＝アイデアや価値観）を、ブロックを用いて、立体化された作品として可視化させます。各人がアイデアを作品として作り、他のメンバーは作品を様々な視点から観察し、質疑応答を交わすことで、アイデアを膨らませることができます。更に、お互いの作品を一緒にすることで、お互いの内観をつなぎ、一つのチームとして、さらにアイデアの完成度を挙げていくのです。



～講師の紹介～

蓮沼 孝氏

(株)ロバート・ラスムセン・アンド・アソシエイツ 代表取締役社長



レゴ®シリアスプレイ公認ファシリテーターであり、NPO 法人九州・アジア経営塾のプログラム・ディレクターを歴任。国内の通信システム会社、リテール事業会社、商社、シンクタンク、外資系エンジニアリング会社等レゴ®シリアスプレイを活用した課題解決プログラムを提供、また、大学、大学院等での公開セミナーを行い、視点を広げ、対話能力の向上に寄与している。著書：「成功するキャリアデザイン」（日本経済新聞、堀義人らと共著）



シーン 物語のような場面を

想像してください

次回案内

第6回 野鳥公園ラウンジカフェ

日時 2013年9月21日（土） 10:00～12:30 開場 9:40

場所 AQUA博多 3階会議室A：福岡市中央区中洲5-3-8

テーマ 開園後の野鳥公園の姿 「野鳥公園の様々な場面を描こう！！」

～ダイアログ（対話）を重視した様々なファシリテーション手法を活用して、楽しくかつ話しやすい雰囲気が進めます～

これまでの野鳥公園ラウンジカフェから生まれたたくさんのアイデアや意見に基づき、全体コンセプト案を提示します。その内容を練り込むとともに、「野鳥公園の使い方」について整理していきます。その使い方を実現するための機能とは？そして、野鳥公園で練り広げられる様々なストーリーは？成果としては、場面（シーン）を追及していきたいと考えています。いよいよ終盤に突入するラウンジカフェで、一緒に物語を創っていきましょう。

●参加費：無料 どなたでも参加できます！

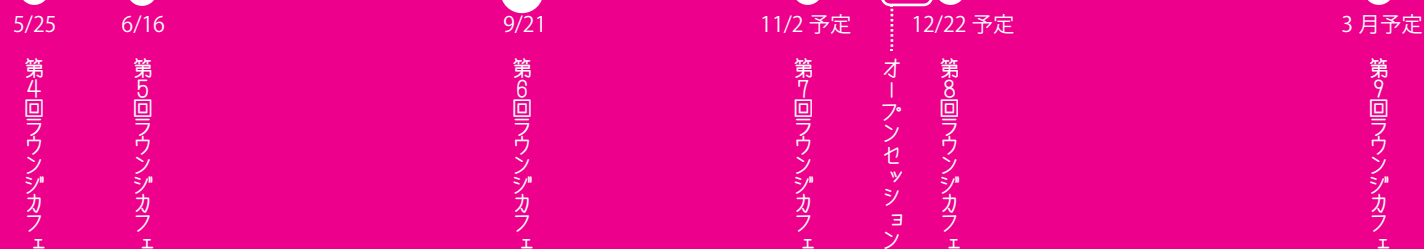
●主催：福岡市環境局

申し込み締め切りは9月18日（水）です

◆参加を希望される方は、電話、FAX、メールのいずれかで、氏名、住所、連絡先（電話番号もしくはメールアドレス）を添えてお申込みください。グループやご家族で参加される場合は、全員の人数をお伝えください。

お申し込み先/お問い合わせ先 福岡市役所 環境局 環境調整課 野鳥公園整備担当 【担当：名川】

TEL 092-733-5389 FAX 092-733-5592 E-mail nagawa.m02@city.fukuoka.lg.jp



参加者募集！！

第5回野鳥公園ラウンジカフェの振り返り

■開催日時：2018年6月16日（日） 12:30～18:00 ■会場：天神クリスタルビル ■参加者：40名

今日のテーマ

レゴ®シリアスプレイで
理想的な野鳥公園を考えよう
です！

講師 の蓮沼さん
((株)ロバート・ラスムセン・アンド・アソシエイツ)



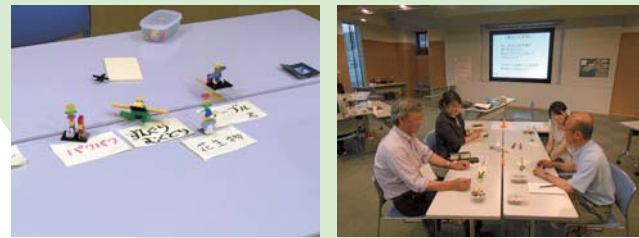
①ブロックに触れてみよう

まずはブロックに親しんでもらうことから始めました。参加者の皆さんには、予め用意していた数種類のブロックを使って、できるだけ高いタワーをつくらせてみました。単に高く積み上げても、積み上げ方がしっかりしておかないとすぐに崩れてしまいます。皆さんにはブロックの性質を理解しながら、とにかく高いタワーをつくらせてもらいました。



②ブロックを使って自己紹介

自己紹介もブロックを使います。参加者の皆さんには、好きなブロックを10個選んでもらい、それを使って自分が考える「進化した動物」をつくらせてもらいました。作り終えたらそれに名前をつけ、それを5年後の自分の姿に置き換えてみて、テーブル内で自己紹介をしてもらいました。普段あまりしないこのような自己紹介のやり方に参加者の皆さんは最初は少し戸惑いながらも、共通の話題を出し合うことでテーブル内で早くもコミュニケーションが生まれていたようでした。



③赤と緑のブロック

赤と緑のブロックのうち、「信頼」という言葉にイメージする方をどちらか選んでもらいました。赤を選んだ人の理由には、例えば赤は情熱を連想する色で、情熱を持っている人には信頼を感じやすいとおっしゃっていました。緑を選んだ人の理由には、例えば緑は自然を連想する色で、自然体の人には素直で、嘘がないということイメージするので信頼を感じやすいとおっしゃっていました。このように、同じ言葉であっても、人によってその言葉に持つイメージは異なります。どんな言葉であっても、話し手の言葉にこめられたイメージを理解することが大事なのです。



④野鳥公園で自分が貢献できることは?

参加者には好きなだけのブロックを選んでもらい、「私の挑戦」というテーマで参加者の皆さん自身が野鳥公園で貢献できることについて作品をつくらせてもらいました。作った作品に対してそれを表す3つのキーワードを付箋紙に記入し、作者ではない別の方が、作品と付箋紙のキーワードをもとにその作品について班内で発表するようにしました。発表者は作品に込められた考えや思いを自分で認識したことを伝えようとしていますが、作者の考えや思いと合っているところもあれば、違うところもあったようで、ここでは人によって言葉に対して持つイメージが異なるということを実体験してもらいました。



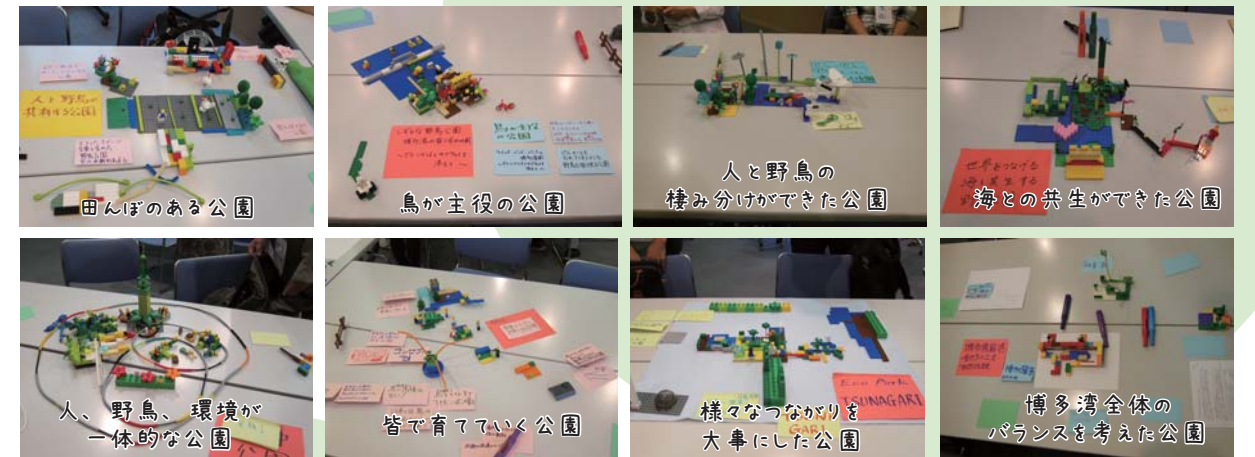
⑤あなたにとって“とんでもない”野鳥公園とは?

まず各自が望まない公園の姿を明確にする為に、各自が考える、とんでもない公園をつくらせてもらいました。作り終えたらその作品を班内で発表しました。発表が終わると各自の作品の内容を取り入れた作品を班内で1つつくるようにしました。班の作品ができると、今度はそれを班ごとで発表しようようにしました。発表の場面では、「伝える」ということを意識されて、皆さん丁寧に発表されていらっしゃいました。



⑥あなたにとって“理想的”な野鳥公園とは?

今回は、“とんでもない”野鳥公園の対局にある、“理想”の野鳥公園のイメージを具体的に創ることに挑戦です。「ユネスコの国際研修プログラムに参加している中学生が野鳥公園を視察されるとしたら、どのようなことを自慢したいか」について、作品をつくらせてもらいました。⑤と同じで、まずは各自で作品をつくらせてから、班内で1つの作品をつくらせてもらい、その後各班で発表するようにしました。



⑦まとめ

最後に参加者の皆さんには、理想的な野鳥公園を実現していくための障壁となるものや、理想的な野鳥公園に向かって皆さん自身ができること、必要なことについて話して頂きました。以下はその一部です。

- 人の手が入り込みすぎてしまうことが一つの障壁。
- 前例を超えるという決断や勇気がハードルだと思う。
- 野鳥公園のみを考えるのではなく、博多湾全体を考えることが重要。
- 公園ができたら自分の友人・知人を公園に連れて行く。Facebook等の活用。
- ラウンジカフェで、利用者の立場で意見を発信していく。
- 行政や専門家、様々な関係者のつながりを公園ができただけ後も大事にすべき。

